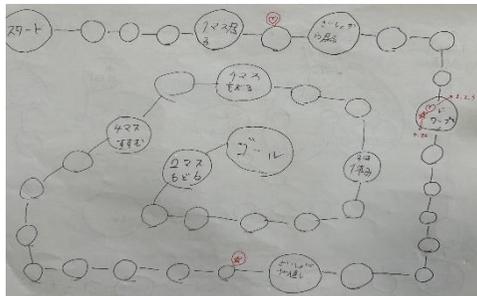


# 7月 はらっぱだより

例年より早めに梅雨が明けましたね。大きな豪雨被害に繋がることがなくてよかったです。雨が弱い日は外での泥遊びを楽しみました。また、外での活動が限られたときは、子どもたちが室内でも楽しめるような活動を計画し、サランラップに絵をかき、懐中電灯で照らしたライトシアターなどの工作を行いました。

さて、はらっぱでは子どもたちの中である遊びが行われています。それはすごろくです。すごろくは7世紀に日本に伝わり、江戸時代には今のようなすごろくが流行したという歴史があります。サイコロを振って、出た目の数だけゴールを目指して進むという、シンプルなルールが遊びやすく、夢中になりやすい遊びだったのかもしれません。

話は戻りますが、はらっぱで行われているすごろくは、ただのすごろくではありません。手作りすごろくなのです。



この手作りすごろくはある1人のお友達により広まります。事前に作ってあったコースにそのお友達が色々な言葉を書き込んでいったのです(○マス進む・○回休み・スタートに戻る... など)。きっとそのお友達はどんな言葉を書こうか悩みながらも、こんなのがあったら楽しそうだなと思いながら書き進めていったことでしょう。書き終わり、実際に遊んでみるとなかなか楽しいものでした。「○マス進む」のマスに止まるとラッキーと思い、笑顔でコマを進めていく。また、「スタートに戻る」のマスに止まると「えー」と言いながらもちゃんとスタートマスに戻る。そんな風楽しそうに遊んでいました。その様子を見た周りのお友

令和7年7月1日 はらっぱ 発行  
達も「やりたい!」と言って、次々と手作りすごろくに参加。そして、みんなが楽しそうに遊んでいるところを見て、すごろくを作ったお友達は嬉しそうな表情を浮かべ、この日を境にすごろくの紙を1枚だけでなく、何枚も作るようになったのです。また、すごろくの言葉もひと工夫(例:「変顔をする」、「3マス進む」の先が「スタートに戻る」... など)。作っては遊び、作っては遊びを繰り返す、そういった光景を目にすることが増えてきたと思います。



→くすぐりのマス



→変顔のマス

また、最初で作ったお友達だけでなく他のお友達もすごろくのコース作りに挑戦。作る人によって書く内容も異なるため、まさに十人十色ですね。すごろくを通して、いろいろなお友達と交流が増える、良いきっかけになったのではないかと思います。



梅雨明けは体が暑さに慣れていないため、熱中症になる危険性が高くなるそうです。夜更かしをせず、朝ごはんをしっかり食べる。このことを踏まえ、万全の体調で毎日を過ごしましょう。また、熱中症にならないためにも、水分補給が大切です。「喉乾いてないから水分取らなくていいや〜」では熱中症になる第一歩を踏み出してしまいます。喉が渇いてなくとも体は水分を欲しています。自分のためにも体のためにもこまめに水分を摂るという意識を常に持っているといいのかもしれないですね。

